

社説

民心を激せしむる勿れ

外交に秘密を要するは云ふまでもなきことにして如何なる民主國にても此一事は當局者の専断に任ずるの常なり戦を交ふるに當て我は斯く之の方略を行ひ何れの方面より牽制して何れの方面に主力を集むる等なりなど公言せば勝算は到底期す可らず外交上の掛引を發表するが如きは狂愚の沙汰なれども然れども餘り嚴重に門戸を鎖して少しも消息を漏さず國民をして暗中に彷徨せしむるが如きは策の得たるものに非ず凡そ國民として國を愛へざるものなし特に立憲治下の人民は各自自から國事に任ずるの義務ある可きが故に一朝大事の起るに際しては其意を一層深くして發して議論となり又運動となり其固より其所なり此時に當り人民は全く門外漢にして少しも消息を得ず當局者は西に向て歩みつゝあるか將た東に向はんと欲するか一切分らざるに於ては或は知らず政府の運動を妨げ或は其意を誤解して反抗するなど種々の不都合を生ず可し國民の後援ありては尙ほ不如意を免れざるの常なるに況して後より製肘せらるゝに於ては活潑なる運動は到底望む可らず事に害ならん限りは成るべく要を分けて事を共にするの方針に出づると肝要にして英政府の如きは或は國民の運動に對し又は公會の演説に於て往々其政策を發表するの例なり例へば本月一日外務次官は議員の質問に答へて露國は旅順も大連も外國貿易の爲めに開放す可しと英國に保證し爾來その保證を取消したるものと云ひ又同日大蔵大臣は對露政策を説明して英國は威海衛を得るも商港とするの意に非ず以て如何なる強國にも渤海に其權力を恣にしむるゝと云ふが如きものなり

電報

時事新報倫敦特電 (時事新報倫敦特電) 西米愈々開戦せん 倫敦四月十六日ロイヤル電 西班牙内閣は華聖頓駐在公使を即刻召還の手續に及びたり 米國大統領マツキン氏は議會の決議を裁可せり

西米愈々開戦せん 倫敦四月十六日ロイヤル電 西班牙内閣は華聖頓駐在公使を即刻召還の手續に及びたり 米國大統領マツキン氏は議會の決議を裁可せり 西米の關係と西班牙公使 米西の關係と西班牙公使 佛國借地後報 佛國が廣州の借地權を得たりとの報は確保

常陸丸進水式別報 本日三善造船所に於て日本郵船會社の新造汽船常陸丸の進水式を行ひたるに其結果好成績なり式場へは近衛首相官邸長を初め内外の來賓二千餘人も觀禮し盛況を呈せり 鹿兒嶋の出火 昨夜當市に山火ありて八戸焼失せり

米西の關係と西班牙公使 昨日或る方に達したる電報なりとて米國大統領は獨力を認定する旨の宣言を發表したりとの風説あり前日米のロイター電報に據するに於て其事なりとも打聞し難きを以て取敢へず米國公使を召して事の實否を問ひたるに公使の答に予の手許には未だ何等の通知もなければさつばは子母然し近來の形勢より推察すれば或る事もあるべし若し果して我政府にてキニニの獨立を認定したりとせんか西米は必ず抗議を申込むべく其結果或は不祥の事に及ばんも知るべからず極に心配に堪へざる所なりは南北戦争の際北軍に屬して叛亂し幾く千戈の塵をよこさるるを感ぜり故を以て一個人とし

ては熱心に平和を希冀するものなれども如何せん我國の人民は義侠の念甚だ熾にしてキニニの慘狀を觀するに忍びず輿論を以て之を獨立を扶持するに盡力せんと思はれれば西班牙にして譲歩する所なからん乎兩國の衝突は止むを得ざるものと云ふべし大第なり最も大統領マツキン氏を始め政府の要路に當るものは何れも熱心なる平和論者にして全力を擧げて激論を取録するに勉めつゝあれども國中の議論は下院の投票にても知らるゝ如く當然の爲に場す所あらんとするに傾きたれば平和の望も其少なきに似たりキニニの慘狀に就ては我國の新聞紙にて随分喧嘩しく論議の爲に場す所あらんとするに傾きたれば平和の望も其少なきに似たりキニニの慘狀に就ては我國の新聞紙にて随分喧嘩しく論議の爲に場す所あらんとするに傾きたれば平和の望も其少なきに似たり

米西の關係と西班牙公使 社員は又西班牙公使に對りたるに公使の外に二人の館員居合せて面會し種々の談話を爲したるも要するに同公使館には未だ何等の通報も來らず然し若し合衆國にして強てキニニの獨立を認め兵力を備へて之を實にせんとする如き事ならば無庸論議するに當りて居る可き事に非ず必らず兩國の間に戦争の不幸を見るなるべきも西班牙政府は成る可く米國に對し平和を維持するの方針なりと云ひ尙又キニニの慘狀に就ては米國にての取沙汰全く過大に失し兎角平地に風波を起すの因となる機微あるは憚むべき所にして米人がキニニの窮乏を憐れむは感謝に堪へざれども同國內に叛徒救助の本部ありて援けつゝ兵船を運送するは甚だ迷惑とする所にして此事さへなくばキニニの内亂は或るの音響したるるならんになど物語れり

犯罪の美術 (七十四) 何はあれ開けるからば、一刺も刺さずべきにあらざり、伴は春風の着せ、母衣の中の袖まて濡らるるを、戀も物とせば、海軍の軍艦を、字畫として急がす。國會議會と云ふは、大工男工女、割割したる。時恰も正午にて、幾日の休められたれば、一町に亘りて建て列ねたる、板屋のうらな子のほどに、さしもの喧嘩しはし絶えたり。

左様か、それ呉れ。 「花前さん宿 時間の掛かる。 「おを云ひな。 腰の豆絞りに 来るを待ちて 伴は直に、我 難儀もなく させたる。 目 せて、銀を くらう。 會場なう書け ばはなき出し 九す、その 九す、その 九す、その